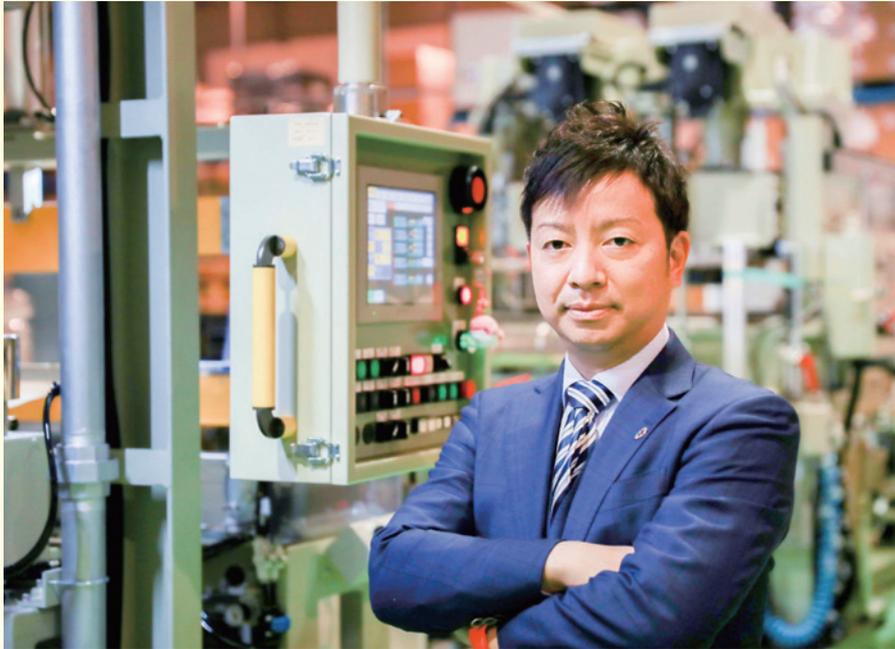




和光紙器株式会社

代表取締役

もとほし しろう  
本橋 志郎 氏



「梱包資材にとどまらず、防災、地域、教育分野へも視野を広げ、ものづくりを通じて社会に貢献する会社を目指したい」と語る本橋社長

環境に配慮した包装資材「<sup>ポリエコレン</sup>Polyecolene®」を開発し、サーキュラーエコノミーに取り組む同社の本橋社長に話を伺いました。

★貴社の概要について、教えてください。

**本橋** 当社は1962年に設立した、製造業向けの包装資材を手掛けるメーカーです。段ボールをはじめ、工業製品や部品を安全に輸送するための各種トレーや緩衝材など、幅広い包装資材の製造、販売、開発を行っています。用途や輸送条件に応じた材料選定から、設計、加工、成形までを自社で一貫しているところが特徴です。

★貴社の強みは何ですか？

**本橋** 最大の強みは、環境に配慮した包装資材を、原料から製品まで一貫して製造できる体制にあります。一般的には、材料メーカー、シートメーカー、成形メーカーと工程ごとに複数の企業を経由して製造されますが、当社ではリサイクルペレットの製造からシート化、成形までを自社で完結し

ています。この一貫製造により中間コストを削減し、「環境に良いが高価」というイメージを覆し、環境配慮型製品でありながら、従来品と同等、あるいはそれ以下の価格での提供を可能にしています。さらに、使用後のトレーを廃棄物として無償回収するのではなく、資源として買い取り、再び原料へ戻す循環の仕組みを構築しました。使用後も「価値あるもの」として扱うことで、お客様の意識も変わり、循環型社会を共につくるパートナーの関係が生まれています。

★環境配慮型包装資材「ポリエコレン®シリーズ」について教えてください。

**本橋** 「ポリエコレン®シリーズ」は、当社の環境配慮型ものづくりを象徴する製品群です。リサイクル材100%を基本とし、製造工程で発生するロス材もすべて原料として再利用し、廃棄物を出さない仕組みを徹底しています。耐久性が高く、繰り返し使用できるリターンブル用途に適した製品がある一方で、海外輸送向けには薄肉設計による省

和光紙器株式会社



所在地 川口市幸町1-9-17  
 代表者 代表取締役 本橋 志郎 氏  
 事業内容 環境配慮型包装資材の開発・設計・一貫製造・販売、リサイクルペレットの製造・販売 ほか  
 資本金 3,000万円 従業員数 86名  
 TEL 048-252-4734  
<https://www.wakosiki.co.jp>



## 包装資材でサーキュラーエコノミーへの挑戦！



和光紙器の強みである「Polyecolene®シリーズ」



製造を進化させていくために考えるエンジニアたち



金型・パレット・シート・真空成形まで社内一貫製造の仕組みを構築



防災×環境の考えを基に設計製造している防災グッズ

資源型のワンウェイ用もあります。近年では、お客様から発生するPPバンドや廃プラスチックを原料に取り入れた製品も開発しました。自社の廃材が包装資材として再利用されることで、お客様自身もサーキュラーエコノミーの担い手となる点が高く評価されています。

開発にあたっては「従来品より高くなる製品は商品化しない」というルールを設け、同等以下の価格を実現し、誰もが環境配慮型製品を当たり前を選択できるようにしていきたいと考えています。

### ★数々の賞を受賞されていますね

**本橋** 私が社長に就任して間もなく、コロナが発生しました。事業活動が制限される中で、「自分たちにできることは何か」を考え、当社の技術を社会課題の解決に生かす取り組みを行いました。フェイスシールドをつくって市や支援学校などに寄贈したほか、災害時に使用する組み立て式段ボールベッドの改良、避難所用の段ボール製ペットケージ、軽くて丈夫なポリエコレン担架などの防災

グッズを、従業員参加型でアイデアを出し合いながら開発しました。

近年、防災への関心が高まる中で、環境に配慮したこれらの製品が高く評価され、経済産業省や埼玉県、地元の川口市から複数の表彰をいただくことになり、従業員が自分の仕事や会社に誇りを持ってくれるようになったと思います。

### ★今後の展開・抱負は

**本橋** 2007年からリサイクル資源を活用したものづくりに取り組んできました。当時は時代を先取りしすぎた面もあり、すぐに受け入れられたわけではありません。しかし、SDGsが広く認知されるようになった現在、その取り組みがようやく社会の要請と重なってきたと感じています。

これからも使い捨てではなく、生かし続けるという発想のもと、材料管理から環境に配慮した商品の設計、材料開発、そして一貫製造による無駄の排除まで、当社ならではの循環型ものづくりを進化させていきたいと考えています。

(敬称略)